



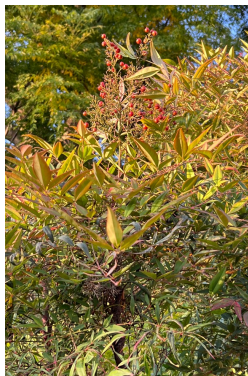
Vol. 49に寄せて

明けましておめでとうございます。お正月はいかがでしたか？お正月は年神様を迎えて新しい年の始まりをお祝する日です。昔は、祖先の霊は田や山の神となり、お正月には年神となって、子孫の繁栄を見守ってくれと考えられていました。年神様は1年の福德を持ってお正月に来られるので、その神様をもてなすために、お正月飾りやお節料理などを準備します。お正月飾りでは、縁起の良い植物を用いた門松や生花を飾ります。今回は、縁起が良いとされる植物の1つ「ナンテン」をテーマにしました。「難（禍）を転じて福となす」に通じることから、縁起が良いとされています。



1月に見頃を迎える植物：ナンテン（メギ科）有毒植物

和名：ナンテン
学名： *Nandina domestica* Thunberg
薬用部：果実、葉
生薬名：ナンテンジツ（南天実）
ナンテンヨウ（南天葉）
用途：果実（鎮咳、消炎）
葉（健胃、解熱、殺菌）
栽培場所：植物園 1号園入り口
開花時期：5～6月



ナンテンについて

ナンテンは、中国原産で平安時代頃に渡来したとされ、日本では本州の関東以西、四国や九州地方、また中国やインドなどに分布する常緑低木である。低木と言われるが、材を形成せず茎が木質化しているだけで、本来は草本植物だそう。樹高は1～2 m程で、幹は束になって株立となる。葉は枝先に集中してつき、3～4回三出羽状複葉で、小葉は被針形で先は尖る。常緑樹と言われるが、晩秋には綺麗に紅葉する。5～6月、枝先に大型の円錐花序を作り、径6～7 mmの白色の6弁花を多数つける。花は黄色い6つの雄しべが目立つ。秋から冬にかけて、球形の果実が紅く熟す。



南天実について

南天実は、日本薬局方外生薬として収載され、シロミナンテン（*Nandina domestica* forma *leucocarpa*）も基原植物として記載されている。シロミナンテンの果実は名前の通り、熟しても紅くならない。生薬は熟した果実を採取し、日干しにして調製する。鎮咳、消炎作用を有し咳止め薬として喘息や百日咳に用いられるほか、のど飴なども配合されている。赤い実でも白い実でも、効果に違いはないとされるが、昔からシロミナンテンの方が珍重される傾向がある。そのため、赤い実を漂白し高めに販売されていることもあるので、注意が必要である。



南天実

1月に見頃を迎えるその他の植物 <科名はAPG分類体系による>

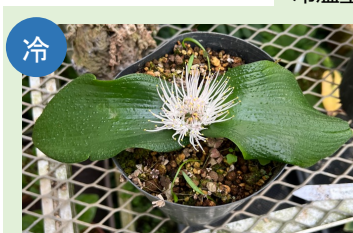
冷温室の植物



ヤブツバキ（ツバキ科）
生薬名：ツバキ油（椿油）
薬用部：種皮を除いた種子
用途：軟膏基剤、毛髪用油

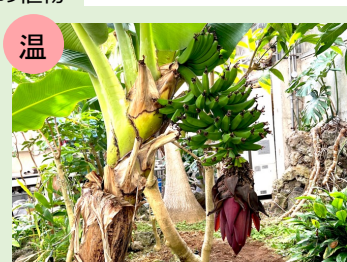


クリスマスローズ（キンポウゲ科）
観賞用として栽培されるが、強心配糖体（ヘレボリンなど）を含み、有毒である。



マッソニア・ブスツラータ
（キジカクシ科）

南アフリカに自生する球根性の多肉植物で、2枚の楕円形の葉の中央にユニークな花が咲く。



バナナ（バショウ科）
木に見えるが草本である。果実を食用とする以外に、根茎や葉なども生薬として利用される。



マサキ（ニシキギ科）
生薬名：ワトチュウ（和杜仲）
薬用部：幹皮
用途：杜仲の代用とされていた



ナツミカン（ミカン科）
生薬名：キジツ（枳実）
薬用部：未熟果実
効能：健胃、理気、去痰



ベニノキ（ベニノキ科）
熱帯アメリカに生育する小高木で、種子・種皮に含まれる色素は、食品着色料として用いられている。

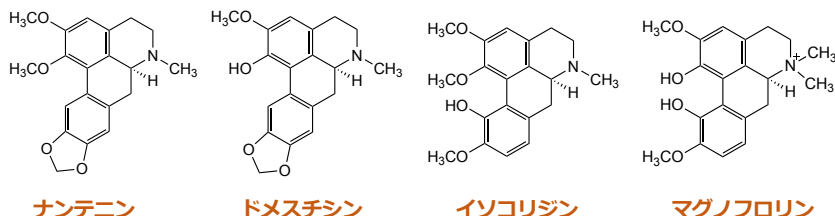


マコハケオモト（ヒガンバナ科）
南アフリカに分布する球根植物で、花が眉についた白粉を落とす刷毛に似ているのが名前の由来である。

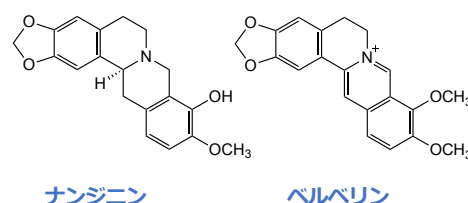
ナンテンの成分と利用

ナンテンは植物全体にアルカロイドを含む有毒植物である。特に果実はアルカロイド含量が高く、アポルフィン骨格を持つナンテニン（＝ドメスチン）、ドメスチシン、イソコリジンなどを含有している。ナンテニンとドメスチシンは知覚神経や運動神経末梢に対する麻痺作用、および呼吸中枢に対する抑制作用を示すことがわかっている。これらアルカロイドの中では、ナンテニンの含有量が高く、南天実の咳止め効果を大きく担っている。一方、葉も同様の成分を含む他、アポルフィン型アルカロイドのマグノフロリン、ベルベリン型アルカロイドのナンジニンやベルベリンの含有が報告されている。ナンテンの生の葉は、しばしば赤飯や魚料理の上に添えられることがあるが、これは装飾のためだけではなく、殺菌作用を持つ成分を含むことや微量に含まれる青酸配糖体から生じたシアン化水素の防腐効果を期待してとされている。

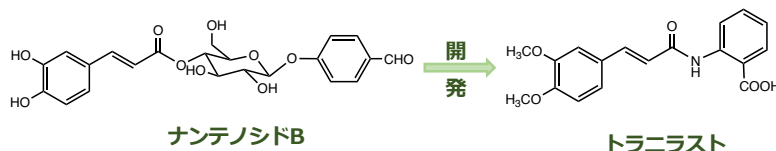
アポルフィン型アルカロイド



ベルベリン型アルカロイド



ナンテンの葉には、芳香族配糖体のカフェ酸エステルであるナンテノシドBが含まれている。この化合物は肥満細胞からのケミカルメディエーター遊離抑制作用を有することから、この構造をもとに抗アレルギー薬のトラニラスト（製品名リザベン）が開発されている。



学内のメギ科植物

学内では、「ナンテン」と名がつくメギ科の植物を2種類見ることができる。1つは、F棟北側の坂道で見ることができる「ヒイラギナンテン」で、葉がヒイラギに似て縁にトゲがあることや実のつきかたがナンテンに似ていることが名前の由来と言われている。もう1つは、B棟東側の通路で見ることができる「ホソバヒイラギナンテン」で、ヒイラギナンテンに比べて葉が細いことからこのように呼ばれている。ナンテンと同様に、これらも縁起の良い植物として庭などで広く植栽されている。

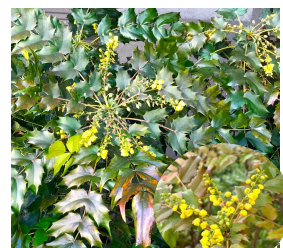
ヒイラギナンテン(*Berberis japonica*)：台湾、中国、ヒマラヤが原産で、江戸時代に日本に渡来し、主に観賞用に植栽される常緑低木である。高さ1~2 m、葉は互生し奇数羽状複葉で、葉は茎の頂に集中してつく。小葉は卵形で大きな鋸歯がある。3月ごろに茎の先端に黄色の総状花序をつける。

ホソバヒイラギナンテン(*Berberis fortunei*)：中国が原産で、明治時代に日本に渡来し、主に観賞用に植栽される常緑低木である。高さ1~2 m、葉は互生し奇数羽状複葉で、葉は茎の頂に集中してつく。小葉は細長く縁に鋸歯がある。11月ごろに茎の先端に黄色の総状花序をつける。

両植物の葉は共に十大功劳葉（ジュウダイコウロウヨウ）と呼ばれ、清熱・鎮咳などを目的に用いられる。また、材は黄色で成分としてベルベリンやパルマチンなどのベルベリン型アルカロイドを含有する。よく似た植物であるが、葉の形や開花の時期が異なることで容易に見分けることができる。

MEMO：ナンテンの縁起の良さ

和名のナンテンは、漢名の「南天竹」の竹を外して音読みしたものであり、前述のように「難を転ずる」の語呂合わせから、縁起物や災難除けとして用いられてきた。例えば、妊婦の安産を祈願して床の下に敷いたり、武士が出陣する時には床に挿して勝利を祈願したそうである。また、火災を避けられるとのことから庭木として、さらに不浄を清め厄払いの目的で、鬼門やお手洗いのそばに縁起木として、日本の多くの人家の庭に植えられているとのことである。



ヒイラギナンテン



ホソバヒイラギナンテン

縁起の良い植物の特徴

お正月やお祝い事で用いられる縁起の良い植物には、主に次のような特徴があります。

- ①常緑樹：常に青々とした緑を保ち長寿や永続的な幸福を象徴
- ②魔除け・厄除けの効果があると考えられている植物
- ③成長が早い木：発展や繁栄を象徴
- ④紅い実を多くつける植物：富や財産の象徴
- ⑤良いイメージの名前を持つ植物 など

植物園で見られるサクラソウ科のマンリョウ（右写真）は、常緑で冬に紅い実を多くつけることやその名前から、富を引き寄せ金運が上がると言われる縁起の良い植物です。



編集後記

冬になると空気が乾燥し、のどがイガイガして咳が出やすくなり、のど飴を舐めたりしますね。のど飴と聞くとお菓子（食品）のようなイメージがあるかもしれませんが、医薬品や医薬部外品に分類されるものもあります。特に、医薬品ののど飴は、用法や用量を守って使用することが大切です。利用目的に合わせて購入し使用してください。

神戸薬科大学 薬用植物園

園長 土反伸和（医薬細胞生物学研究室 教授）

西山由美（文責）、平野亜津沙、大井隆博

E-mail : nisiyama@kobepharm-u.ac.jp

総合教育研究センター支援部門 竹仲由希子

